

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成31年4月18日（木）

3. 調査の対象

泉佐野市立第二小学校 第6学年，全児童

実施児童数（ 128人 ）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、小学校は国語及び算数，中学校は国語，数学及び英語。

イ 出題範囲は，調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし，出題内容は，それぞれの学年・教科に関し，知識・技能に関する内容と，それらを活用する力や構想を立てて実践し評価・改善する力などに関する内容とする。

ウ 出題形式については，国語及び算数・数学においては，選択式及び短答式に加え，記述式の問題とする。英語においては，選択式，短答式及び記述式の問題に加え，「話すこと」に関する問題の解答は，原則として口頭式によるものとする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童生徒を対象に，学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に，学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。

※平成29年度より，文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は，整数となっております。

平成31年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

- 平均正答数の全体的な分布状況は、全国より約5%下回っている。

平均正答率（本校 59／泉佐野市 59／大阪府 60／全国 63.8）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問	
<p>【話すこと・聞くこと】</p> <p>○話し手の意図を捉え、条件を満たしながら、心に残ったことをまとめ書くことに課題がある。 （活用・記述型に課題）</p> <p>3三 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする。 (50.8 /68.2)</p> <p>【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】</p> <p>○送り仮名のある漢字の習得に課題がある。</p> <p>1四（2）「限らず」 (55/5/69.4)</p> <p>○文と文の意味のつながりを考えながら接続語を使って内容を分けて書くことに課題がある。</p> <p>1四（4）「そこで」を使って、長い一文を二文に分ける。 (37.5 /47.8)</p>	<p>【書くこと】</p> <p>○情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えることに課題がある。</p> <p>1二「公共電話にはどのような使い方や特徴があるのか」における書き方の工夫として適切なものを選択する。 (56.3 /63.4)</p> <p>【読むこと】</p> <p>○目的に応じて文の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことに課題がある。</p> <p>2（2）食べ物の保存についてまとめているノートの一部のアに入る疑問に思ったことの①に対する答えとして適切なものを選ぶ。 (68.9 /75.9)</p>	

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
（37）国語の勉強は好きですか	53.4	64.2	○	10.8
（39）国語の授業の内容はよく分かりますか	76.4	84.9	◇	8.5
（41）国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするとき活用しようとしていますか	67.2	76.9	◇	9.1
（42）国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか	67.2	78.1	○	10.9
（43）国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか	60.3	68.5	◇	8.0
（44）国語の授業で文章や資料を読む時、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか	62.6	71.4	◇	8.8

○選択式、短答式の問題に比べ、記述式の問題の無回答率が高くなる傾向がある。苦手意識があり、最初からあきらめてしまうことが予想できる。記述の問題にも根気よく向かおうとする姿勢を育てる必要がある。加えて、読む能力も全国に比べて4%低いので、高学年に急に長い文章を読んで記述させても、読むだけで大変な児童も多いと予想される。そのためには、低学年のうちから、短い文の読解と記述になれさせておく必要がある。

○領域別では「話す聞く」が全国より約10%下回っている。特に話し手の意図をとらえて活用する分野が弱い。インタビュー形式や会話になっている「活用型」活動になれていないためだと予想される。

「書く」分野も全国より5%以上下回っているので、短いものから、活用型の形式で選択したり記述したりすることを中学年からなれていく必要があるように思われる。

○問題文を正しく読めていない傾向がある。条件の3つを網羅していなかったり、出てきた言葉にすぐ飛びついて選んだり、問題文自体の読解や、問題文をしっかりと読んで問題にあたるという経験が不足していると考えられる。

○学習状況調査からは、42「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか。」という項目、43「国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか。」という項目では、全国と大きな開きがある。やみくもに、自分の考えを話したり書いたりするのではなく、うまく伝わるような理由の書き方や組み立て方を丁寧に指導する必要があると思われる。

さらに、41「国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか。」という項目でも、全国より約9%下回っているが、普段の生活の中で、国語で学んだ、「話し方の組み立て」や「説得力ある理由の話し方」など、日常にどう活動していくと、どう自分の生活が豊かになるかを重ねて教師自身が意識し、教えていく必要がある。また学校内での、教える項目や教え方に差がないよう、共通理解して、検討していく必要があると考えられる。

平成31年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

- ・平均正答数の全体的な分布状況は、全国より約2%下回っている。

平均正答率（本校 64 / 泉佐野市 65 / 大阪府 66 / 全国 66.6）

2. 学力状況調査より（本校正答率 / 全国正答率）

算数	特徴がみられた設問
<p>【数と計算】 ○基礎的な計算はできているものの、与えられた条件を基に考えたり、計算の方法を説明したりする力に課題がある</p> <p>③ (1) 350-97について、ひく数の97を100にした式として計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く (82.8/81.8)</p> <p>③ (2) 減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめるとどのようになるのかを書く (26.6/31.1)</p> <p>○加法と減法の混合した整数と小数の計算をすることは、全国と比べると低い正答率となっており、課題が残る</p> <p>② (4) $6+0.5 \times 2$を計算する (54.7/60.1)</p> <p>【量と測定】 ○資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述する問題では、相互に考える力や「1あたり」の理解、それを記述する力に課題がある。</p> <p>② (3) 二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量について分かることを選び、選んだわけを書く (50.8/52.1)</p> <p>○長方形や三角形に関する基礎的な理解はできていると考えられるものの、記述解答するに当たり条件を書ききることができずに誤答となる児童が多く、記述の力に大きな課題がある</p> <p>① (3) 減法の式が、示された形の面積をどのようにもとめているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く (35.2/43.9)</p>	<p>【図形】 ○台形についての基礎的な理解はあり、性質や構成要素に着目し、他の図形を構成することに関しても全国と同じくらいの理解度がある</p> <p>① (1) 長方形を直線で切った図形の中から台形を選ぶ (94.5/93.1)</p> <p>① (2) 二つの合同な図形を、ずらしたり、回したり、裏返したりして、同じ長さの辺同士を合わせて作ることができる形を選ぶ (60.2/60.3)</p> <p>【数量関係】 ○棒グラフを読み取ることが概ねできている</p> <p>② (1) 1980年から2010年までの10年ごとの市全体の水の使用量について棒グラフからわかることを選ぶ (96.9/95.2)</p> <p>② (2) 2010年の市全体の、水の使用量が、1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを棒グラフから読み取って書く (80.5/78.6)</p> <p>○目的に適した、伴って変わる二つの数量を見出すことが概ねできている</p> <p>④ (1) だいたい何分後に乗り物券を買う順番が来るのかを知るために、調べる必要のある事柄を選ぶ (81.3/82.7)</p> <p>○示された除法の式の意味を理解したり、場面の状況から単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果を判断したりする力は全国と比べても課題がある</p> <p>③ (4) $1800 \div 6$は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ (39.8/47.0)</p> <p>④ (3) 残り7ボール分進むのにかかる時間のもともめ方と答えを記述し、24時間以内にレジにつくことができるかどうかを判断する (56.3/62.6)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
(46) 算数の勉強は好きですか	75.6	68.6	◇	7.0
(53) 算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	74.8	82.1	◇	7.3
(54) 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	77.9	84.0	◇	6.1

○出題形式が違ったり、問題文が長くなったりすると、正答率が下がる。応用問題に慣れていく必要がある。

○グラフを読み取ったり数量関係を読み取ったりすることはできるが、読み取った事柄を正確に記述する力に課題が残る。

○基礎的な理解はあり、算数の学習がわかりやすいと考える児童の割合が全国を上回っているものの、記述式の問題や、四則が混在するような応用問題の正答率は下がる。

○算数の授業はわかりやすいと回答する児童の割合は大きいですが、学習内容について積極的に理解しようとする姿勢に課題がある。

平成31年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【家庭生活の様子】	○地域や社会で起こっている出来事に関心が低く、参加率も低い。	○毎日同じくらいの時刻に寝ていますか <69.5/81.4> ○毎日同じくらいの時刻に起きていますか <84.3/91.6> ○国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用している <67.2/76.9> ○地域の行事に参加している <50.3/68.0> ○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている <39.0/49.0> ○今住んでいる地域の行事に参加していますか <50.3/68.0> ○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか <39.0/54.5>
【家庭学習の様子】	○自分で計画して学習を進める力や経験が乏しい。昨年度と同様である。 ○家庭によって勉強時間の差が大きい。	○家で計画的に勉強している <57.3/71.5> ○学校の授業以外に、一日どれくらい勉強しているか 三時間以上 <20.6/12.4> 一時間以上二時間まで <24.4/36.8>
【学校での学習の様子】	○学校のきまりを大切にできていない。また、他の子どもが困っていても気にかける子どもがだんだんと少なくなっている傾向にある。 ○国語科への意欲が低く自分の考えを表現することや、文も構成を捉えることに課題がある。	○学校のきまりを守っている <80.1/92.3> ○人が困っているとき、助けている <77.1/87.9> ○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか <66.4/74.1> ○国語の勉強は好き <53.4/64.2> ○国語の授業では目的に応じて自分の考えを話したり書いたりしている <67.1/78.1> ◇国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか <62.6/71.4> ○解答時間は十分でしたか（国語） <74.2/60.4>

本校の取組

◎これまでの取組み

(1) 「二小 伸びる子 10の力」

「生活をつくる力」

早寝・早起き・朝ごはん。身の回りの整理・整頓をしよう。時間を守ろう。(5分前行動をしよう。)

「学ぶ力」

前の日に自分で学習の用意をしよう。目と心と身体を向けて話を聞こう。わからないことは、聞いたり調べたりしよう。読書をしよう。

「社会力(なかよくする力)」

みんなにあいさつをしよう。思いやりのある言い方をしよう。友だちの良いところを見つけよう。を目標に設定し、学校全体で取り組んでいる。

家庭の協力もあり、100%に迫る児童がほぼ毎朝の朝ご飯を食べて登校してくる。また児童朝礼では全児童が予鈴前に集合し、私語のない状態で児童朝礼を始められるようになってきた。

(2) 研究主題と研究体制

本校では「言葉を大切にし、自ら考え、自ら表現し、伝え合う子どもを育てる ～人の意見に耳を傾け、広げたり深めたりしながら自分の意見を伝える～」を研究主題に、すべての教科の中で「話し合い活動」を取り入れてきた。今年度からは国語科に焦点を絞り、特に「話し合い」のスキルを系統立てて指導していくことを学校全体の課題として取り組んでいる。昨年度から取り組んできた教師の「ゆさぶり」による児童の思考の深化についてさらに発展させ、子どもたちが「自分の意見を言いたい、聞いてもらいたい」と思いながら話し合える場面を設定し発問や手立てについて工夫を行っていく。また、子どもたちが語彙力をつけ、言葉を広げるための実践についても重ねて行う。さまざまな活動を通し、互いの立場や考えを尊重したり、場に応じて適切に表現したりして、言語能力だけでなく豊かな人間関係を育むことをめざして取り組んでいる。

(3) 少人数・習熟度別指導

算数科の少人数指導や習熟度別指導は、「①児童一人ひとりの特性を理解し、個に応じた指導を行い、基礎・基本の定着をはかる。②つまずきの克服や学習意欲の向上につながるように、授業方法や授業体制を工夫し、自ら学び自ら考える力を育てる。」ことを目標にしている。

今年度、本校では第3～6学年の算数科において、単元ごとに習熟度別少人数分割授業と単純分割少人数授業を選択して行っている。学力を高めるために話し合い活動を多く設定したり、教材を工夫したりし、より細やかな指導を行っている。また、単元の学習計画や学習進度については、学年・学級担任と少人数担当教員とで綿密な打ち合わせを行い、指導を進めている。

(4) 校内学力テスト

算数科においては7月と11月に本校で作成したB問題様式の「校内学力テスト」を第3学年から第6学年の児童に実施している。国語科では、同じく7月と11月に市で作成している「書く力」のテストに取り組んでいる。両テストの実施後は分析を行い、本校の取り組みの成果と課題の資料としている。また、学期末には期末のまとめテストや力試しテストの結果の分析も行い、そこから浮かび上がってきた課題について研究推進部会で取り上げ、児童の実態にあった指導体制・指導内容等について意見交換を行い、より効果的な学習指導が進められるよう取り組んでいる。

◎これからの取組み

国語科において学習状況調査からは、「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか。」という項目や「国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか。」という項目では、全国と大きな開きがある。やみくもに、自分の考えを話したり書いたりするのではなく、うまく伝わるような理由の書き方や組み立て方を丁寧に指導する必要があると思われる。指導に当たって、一昨年度より4～6年生では学期に一度「書く」ことに関するテストを行っている。そのテストの結果を分析し、本校の課題を職員が共通理解した上で日々の指導にいかしている。

さらに、「国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか。」という項目でも、全国より約9%下回っているが、授業の中でグループでの話し合い活動を進めていくとき、司会の役割を理解した上で、立場や意図を捉えながら話し合いの観点を整理する指導を充実させていきたい。また普段の生活の中で、国語で学んだ「話し方の組み立て」や「説得力ある理由の話し方」など、日常にどう活動していくとどう自分の生活が豊かになるかを重ねて教師自身が意識し、教えていく必要がある。にっこ二小タイムなどの年間行事を通じて、児童らがより積極的に企画について考えたり、進行の方法を考えたりしていくような活動の場を与えていきたい。また学校内での教える項目や教え方に差がないよう、共通理解して検討していく必要があると考えられる。

算数科においては、「基礎学力の定着」「応用問題への取り組み」の二つの観点から、週に二日朝学習の時間を設けて取り組んでいる。基礎学力の定着のために基本的な四則の問題を週に二日行い、応用問題への取り組みのために月に一度B問題への取り組みを行っている。また習熟度別分割学習の際には、じっくりコースの児童には基礎の練習プリントを、どんどんコースの児童には毎時の課題の後に取り組めるB問題プリントや記述式問題のプリントや論理力を養うためのクイズ方式の問題などを準備し、児童の積極的な学びにつなげたり、実態に合わせた問題に取り組んだりできるような環境を整え、学力の向上に取り組んでいる。

7月に実施した「校内学力テスト」の分析結果や期末のまとめテストの分析結果についても校内で共有し、本校の課題を職員が共通理解した上で日々の指導にいかしている。12月に実施する同テストや期末のまとめテストにおいて、その成果が出るよう引き続き指導を行っていく。

基礎的な知識や技能は比較的定着しており、日々の学習の成果が出ていると考えられる。しかし、授業内に単元名から課題を把握し解決することはできても、実際に文章を読み取り、四則のうちどれを使って解決するのか、数字をどのように使って立式をするのか、と考える力にはまだまだ課題がある。特にかけ算やわり算の学習において「1あたり量」の理解の定着に課題が見られるため、多くの文章問題に触れたり文章で与えられた問題を図示したりするなどの手立てを行い、課題を明確に読み取る力をつけるような取り組みを行っていく。また、算数の時間外にも様々な問題に触れる機会をつくり、立式の判断を素早くできるように学力の定着をさらにはかる必要がある。選択式問題とその根拠を説明する力や自分の考えを表現する力等にも課題がある。これらの課題解決に向けて、自分の考えを書く活動とともに、ペア学習やグループ学習を多く取り入れ、児童が自分の考えを表現する機会をより多く設定する必要がある。

それ以外にも、個々の児童の成果や課題を確実に把握するために、算数アンケートを行っていく。課題を克服するため、より言語活動を充実させ、個に応じた指導のあり方の研究を進めていく。教材研究、単元の学習計画、学習進度、児童個々の評価については、学校全体で共通理解し研究を進めていく。